

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	14-303	慶應義塾大学
題名(原題/訳)		
Personalized feedback as a universal prevention approach for college drinking: a randomized trial of an e-mail linked universal web-based alcohol intervention. 大学生飲酒のための広範な予防アプローチとしての個別のフィードバック:電子メールにリンクした広範なウェブ・ベースのアルコール介入を連結した無作為試験		
執筆者		
Palfai TP, Winter M, Lu J, Rosenbloom D, Saitz R.		
掲載誌		
J Prim Prev. 2014 Apr;35(2):75-84. doi: 10.1007/s10935-013-0337-9.		
キーワード		PMID
大学生飲酒、コンピューター、eメール、インターネット		24421075
要旨		
<p>大学 1 年生の間のアルコール摂取は、健康懸念の中心であり続けている。この集団で飲酒に取り組む労力はウェブ・ベースの介入に依存してきている。それは便利で広範に利用される媒体であり、多数の学生と連絡をとる能力があるためである。危険な飲酒を減らすための、このアプローチの有用性の証拠にもかかわらず、このアプローチの効果をキャンパスに広がる研究の広範な予防戦略として調べた最近の研究では、色々な結果が報告されている。</p> <p>我々は、一年生に対する広範な予防戦略としてウェブによるアルコール介入の効果を調査した。保健行動に関する短い、ウェブ・ベースの調査に関連する電子メールの招待が、秋学期の間にすべての一年生に送られた。</p> <p>試験開始時の評価を完了した人は、フィードバック・ベースのアルコール介入(介入群)または他の健康関連の習性(例えば睡眠と栄養(対照群))についてのフィードバックを受けるためにランダム化された。</p> <p>第 2 のウェブ・ベース調査は、5 ヶ月後の飲酒追跡調査のデータを集めるのに用いられた。前月の大量飲酒のエピソードと最近 3 ヶ月間のアルコール関連問題の数は、初期従属変数として用いられた。負の二項回帰分析では、追跡調査での大量飲酒またはアルコール関連問題に関して介入の有意の効果を示さなかった。</p> <p>彼らが試験開始時に飲まないと報告した学生のサブサンプルの間の更なる飲酒結果の分析法は、アルコール介入を受けた人々がその後アルコールを飲みそうにないことを示した。これらの結果は、ウェブ・ベースのアルコ全介入が未成年の、酒を飲まない学生の間で断酒を維持することに潜在的に役立つ方ことを示唆する。しかしながら、全体として、結果は、一年生の間でアルコール摂取について述べるe-メールにリンクされた、キャンパス全体のウェブ介入アプローチが、その年のコースの上に危険な飲酒を最小化するアプローチとしての効果は限定的である可能性があることを示す。</p>		